

産経新聞 2021年4月19日 「ひこばえ倶楽部」への投稿掲載

(令和2年度入学) 高校2年(六か年コース) I組 田川 泰志 君

現代の日本は利便性を追い求めすぎている。「最近、町の小さな書店が減ってしまった」という母の嘆きから、そう思った。

確かに地元を歩いている、昔ながらの書店は見かけなくなった。

背景には、電子書籍の普及や書籍のインターネット販売がある。私も町の書店に行って本を買うより、電子書籍を選ぶ。家を一步も出る必要がなく、収納スペースもいらないからだ。

なのになぜ、母は町の書店にこだわるのか。母は特に用もなく、ふらっと書店に入るといふ。気になる本を見つけると手に取り、冒頭のページを味わい、表紙の手触りやしおりの色合いに至るまで吟味する。気に入ったら買うそうだ。

「本との一期一会の出合いは、店舗でしか味わえない」と母は言う。

便利であることが一番ではない。手間をかけることも時には大切だと思った。